



# ひなどり

園だより 3月号  
令和3年2月26日  
新潟市立新津第三幼稚園

## 生活発表会を通して、子どもは大きく成長します



園長 間嶋 哲

今年度も、生活発表会が各クラスで行われました。12月初旬の年長あやめ組から始まり、つい先日行われた年少さくら組で終了しました。私自身は都合がつけば、基本的にリハーサルの時に参観させてもらい、感想等を言わせてもらっています。また、リハーサル時に都合がつかないときは、保護者とともに本番を参観させていただいています。発達段階に応じた各クラスの発表は、とても見ごたえがありました。

ビデオを構える保護者の皆さん、そして大勢の観客の前で、劇をやったり歌を歌ったり、楽器を演奏したりすることは、おそらく相当な緊張感を伴うことでしょう。と同時に、緊張感を乗り越えた達成感のようなものを感じ取る絶好の機会ともなるのだと思います。私などは、単に「かわいいなあ」とか、「去年と比べて成長したなあ」とかと感じますが、日々指導されている担任の先生方のご苦勞は、大変なものであるに違いありません。というのは先生方に何うと「劇の内容は、日々変わっていく」と、おっしゃるからです。つまり、最初から決まっているシナリオを教師が教え込むのではなく、子どもの興味関心を大切にしながら、その都度、子どもとともに話し合い創り上げていくからです。

劇を行うことは、子どもにとって、どんなよいことがあるのでしょうか。次の3つが考えられます。

- ① 劇中の登場人物として「〇〇役」を演じ、自分自身が表現する楽しさを味わう。
- ② 劇で使うモノ（道具）を協力して作り、お話のイメージを作り上げていく。
- ③ 観客に見られることを意識した劇づくり、例えば、普段とは違う声の出し方や、抑揚をつけた言い方などを学ぶ。

考えてみると一昔前は、小中学校で劇をすることがよくありました。ところが、現在は小中学校において、自分たちが劇を行い、保護者に披露することなど、ほとんどないというのが実態です。その意味では、幼稚園において劇をすることは、十分な意味があり、継続していかなければならないことだと考えています。

<うれしいお知らせ> 

2月23日(火) 天皇誕生日の日に、小宮朋教諭が女の子を無事ご出産されました。母子ともに、ご健康とのことです。しばらくの間は育児休暇をとらせていただきますが、きっと復帰された際は、ご自身も母親の一人として、これまで以上に素晴らしい保育をしていただけると期待しています。

